

保育者養成校における音楽の可能性

－ 2年間の学修成果と豊かな人間性を育む音楽教育－

佐藤 雄紀

キーワード：保育者養成、音楽、ピアノ、学修成果、人間教育、NTI

I. はじめに

1. 保育者養成校における音楽教育の意義

保育者養成校における音楽教育の役割とは一体何だろうか。保育者として、子ども達と関われる音楽力を身に付け、弾き歌いをしっかりできるようになれば良いのだろうか。筆者の考える音楽教育の持つ可能性はそんな狭義なものではない。音楽を学ぶということは、一般に知られている感性や表現力を豊かにするというに加えて、人の痛みが分かるようになったり、継続して学ぶ習慣を身に付けることができたり、学んだことを次の事柄に応用する力を付けることができたり、人と協力して物事を進めていく力を養ったり、助け合いの精神を学んだり、問題解決能力を高めることができたり、期限までに仕上げることを学べたり、人前に立つメンタリティを身に付けることができたり、音楽を通じて様々な国の文化を知ることによって本当の意味での多様性を学ぶこともでき、その学びの大きさは計り知ることができない。つまり、音楽教育とは人間教育と同義なのである。筆者はジェームス・L・マーセルの次の言葉に強く共鳴している。「音楽は、それが、正しい方向に向けて教えられた時、最高の教育とはどういうものであるかを実証するのです。すなわち、音楽は、教育全体の根本的使命 - 人

間性の高揚という偉大な使命を果たすものとなるのです¹⁾。」また、エル・システマ²⁾の創始者、ホセ・アントニオ・アブレウ博士も「音楽は目に見えないものを、言葉では表現できないものを表現します。それゆえに音楽は創造的で豊かなのです。この独特の性格が音楽を他の芸術より優れたものにするのですが、同時に感情表現に特別な深みを与えるのです。音楽はどの芸術より人間に大きな影響を与えるといえるかもしれません³⁾。」

筆者は、保育者養成校の様々な場面で音楽の持つ力を目の当たりにしてきた。そして、どのような授業を展開したら音楽の力だけでなく、豊かな人間性を育むことができるのかということを常に考え、年月をかけて多くの改革を進めてきた。

- 1) 音楽・ピアノのカリキュラム・教材の改革
- 2) 音楽・ピアノの授業形態の改革
- 3) 音楽・ピアノの入学前教育の改革
- 4) 音楽・ピアノの高大連携の改革

ピアノのカリキュラム・教材⁴⁾を見直し、当たり前とされてきたピアノの個人レッスンをアクティブ・ラーニング⁵⁾型のレッスンに変革し、今や9割弱⁶⁾を占めるピアノ初心者を含む入学生に対する徹底した入学前教育、地域の高校生に向けた毎月の無料ピアノ講座の開講⁷⁾を通じて、学生の意識や音楽に対する考え方が大きく変化してきた。詳しくは、1)は、筆者の論文(2017)「保育者養成校における入学前準備授業とバスティン・ピアノメソッドを用いたピアノのレベル別学習に関する一考察」を、2)は、筆者の論文(2018)「保育者養成校におけるアクティブ・ラーニングを用いたピアノレッスン及び幼児に対する音楽表現指導法に関する一考察」を、3)は、筆者の論文(2018)「保育者養成校における入学前教育(音楽)の可能性」を、4)は、筆者の論文(2019)「保育者養成校における公開講座(音楽)を通じた高大連携、地域連携の可能性」

を参照されたい。

本論文ではまず、本学が行ってきた音楽・ピアノの改革を総括する。その上で、学生のアンケート結果と、筆者の授業に対する考えをまとめた資料を検証・考察し、養成校における豊かな人間性を育む音楽教育の可能性について論じていきたい。学生に取ったアンケートは、本学で学生指導のために使用している保育者特性検査 NTI⁸⁾ の項目を参考にさせて頂いた。なぜなら、最高の愛の形とも言える隣人愛が最も必要とされる保育者としての適性が音楽を通じて育まれていることが実証できれば、人間としてどれだけ豊かに成長したかを測ることが可能であると考えたからである。

II. 本学の音楽教育の概要

1. 概要

まずは、本学の入学前教育と2年間の授業の概要を整理したい。

- 1) 保育者養成校進学を目指す地域の高校生に向けた毎月のピアノ無料講座
- 2) 本学に入学が決まった高校生必修の3回の入学前準備授業
- 3) 4つのレベルに分かれたアクティブ・ラーニング型ピアノレッスン、バスティン、生活の歌、自由曲（音楽Ⅰ、音楽Ⅱ）
- 4) アクティブ・ラーニング型ピアノレッスン、童謡の弾き歌い、自由曲、歌唱指導（音楽Ⅲ、音楽Ⅳ）

これらの総合的な取り組みによって、学生の意識や音楽に対する考え方は大きく変化し、保育者に必要とされる音楽力を着実に身に付けることができるようになってきた。本論文では3)、4)に焦点を絞り、2年間の学修成果と養成校の音楽教育の可能性について述べていく。

2. 使用教材

まずは、本学で使用している教材を確認する。

1) ジェームス・バスティン

『バスティン ピアノベーシックス ピアノ (ピアノのおけいこ) レベル1』

『バスティン ピアノベーシックス ピアノ (ピアノのおけいこ) レベル2』

『バスティン ピアノベーシックス ピアノ (ピアノのおけいこ) レベル3』

東音企画、2009年

2) 田中 常夫、平島 美保、木村 鈴代、小杉 裕子

『こどものうた (簡易伴奏曲付)』圭文社、2011年

3) 森本 琢郎、池田 恭子

『ジュニアクラスの楽典問題集』ドレミ楽譜出版社、2008年

バスティン採択の理由については、本論文の注4と筆者の論文(2017)を参照されたい。楽典は、初心者はもちろんのこと経験者にも基礎知識に抜けがある場合が多いので、全ての学生が既定の所まで終え、自己採点をして提出することを実技試験の受験条件とした。授業の時間で楽典を正規に取り扱わないのは、2年という限られた時間で弾き歌いや歌唱指導、模擬保育など身に付けなければならない内容が多いこと、問題集を自主的に進めさせ、質問を受け入れることで解決できると考えたこと、バスティンの構成が楽典を学びながら進めていける内容になっているということが大きな理由である。

3. カリキュラム

次に、本学の2年間のカリキュラムを見ていきたい。筆者がカリキュラムを作成するにあたって大切にすることは、どの進度の学生も必死に、楽

しみながら、助け合いながら学べるということである。この考えは筆者の論文（2017）に詳しく書いてあるので、ここに引用したい。「現代の養成校の難しい点として初心者が増加傾向を述べてきたが、それでも一定数は経験者、上級者も入学してくる。本学のピアノ経験の調査でも10年 16% 5年 14% と3割いる。これまで養成校でピアノを指導してきて、これらの学生の伸び悩みというのも多く見てきた。それは、多数を占める初心者に目がいくあまり、経験者、上級者に適切なカリキュラム、教材が与えられてこなかったということも大きな要因ではないだろうか。CiNiiで検索してみても、養成校の初心者に関する論文は多数見受けられるが、経験者、上級者に焦点をあてた論文は、ほぼ見当たらない。2年間のピアノのカリキュラムを学年で区切ることなく、上限なく横断して学べるようにし、初心者、経験者という2つの枠にとどまらない細かなレベル分けを行い、そして何より経験者、上級者が初心者を教え、助け、刺激を与え、学生皆のレベルを底上げできないかということを筆者は常々考えていた。」このような信念から筆者が作成した音楽Ⅰ・音楽Ⅱ（図1）、音楽Ⅲ・音楽Ⅳのカリキュラム（図2）をご紹介したい。

図1 音楽Ⅰ、Ⅱの受講にあたって¹⁾

音楽Ⅰ、音楽Ⅱの受講にあたって

音楽Ⅰ、Ⅱでは、より個人の進度に沿った適切な教材を使ってもらうために、4つのコースに分けました。

- ・レベル1 [教科書：バスティンピアノベーシックス レベル1]
- ・レベル2 [教科書：バスティンピアノベーシックス レベル2]
- ・レベル3 [教科書：バスティンピアノベーシックス レベル3]
- ・レベル4 [教科書：自由選択 ※担当教員と相談の上、指定します。]

1. 入学前準備授業の時に、どのコースにするか相談して決めます。
2. 2人の教員のいずれかに配属され、基本的に半期(前期なら前期期間中、後期なら後期期間中)同じ教員からレッスンを受講します。
3. 各レベル到達以上に課題曲が進んだり、弾き歌い曲など多く合格した場合は試験の点に加点します。

音楽Ⅰの共通事項

- ・中間試験までに楽典問題集(九付けも自分で行う)をp.22まで、アカペラ課題 こいのぼり(p.22、p.270) 終えないと中間試験は受験できません。
- ・最終試験までに楽典問題集(九付けも自分で行う)をp.48まで終え、アカペラ課題 大きな古時計(p.42、p.250)、おはよう(p.4)を合格しないと、最終試験を受験できません。終わった人はどんどん先に進みましょう。

音楽Ⅱの共通事項

- ・中間試験までにおべんとう(p.9)、おかえりのうた(p.7)を合格しないと、中間試験を受験できません。
- ・最終試験までに楽典問題集(九付けも自分で行う)をp.61まで終え、メリーさんの羊(p.12、p.303)、さよならのうた(p.224)を合格しないと、最終試験を受験できません。終わった人はどんどん先に進みましょう。

以下は自分の該当コースの注意をよく読んでレッスンに臨んでください。

★バスティンピアノベーシックス レベル1コースの学生

音楽Ⅰ 中間試験までにp.24 最終試験までにp.40

音楽Ⅱ 最終試験までに一冊終える。最後はアラバスクを演奏する。

★バスティンピアノベーシックス レベル2コースの学生

音楽Ⅰ 中間試験までにp.28 最終試験までにp.37

音楽Ⅱ 最終試験までに一冊終える。

★バスティンピアノベーシックス レベル3コースの学生

音楽Ⅰ 中間試験までにp.25 最終試験までにp.37

音楽Ⅱ 中間試験までにピアノ曲1曲(教員と相談) おべんとう、おかえりのうた、メリーさんの羊、さよならのうたまで終える。最終試験までにピアノ曲1曲(教員と相談) 音楽Ⅲ、音楽Ⅳのカリキュラムに従い、弾き歌い曲をどんどん進めていく(弾き歌い曲4曲以上合格すること)

★自由選択 レベル4コースの学生

音楽Ⅰ 中間試験までにピアノ曲1曲(教員と相談) おはよう、おべんとう、おかえりのうた、メリーさんの羊、さよならのうたまで終える。以下音楽Ⅲのカリキュラムの弾き歌いをどんどん進めていく。

最終試験までにピアノ曲1曲(教員と相談) 音楽Ⅲ、音楽Ⅳのカリキュラムに従い、弾き歌い曲をどんどん進めていく(弾き歌い曲4曲以上合格すること)

音楽Ⅱ 中間試験までにピアノ曲1曲(教員と相談) 音楽Ⅲ、音楽Ⅳのカリキュラムに従い、弾き歌い曲をどんどん進めていく(弾き歌い曲4曲以上合格すること)

最終試験までにピアノ曲1曲(教員と相談) 音楽Ⅲ、音楽Ⅳのカリキュラムに従い、弾き歌い曲をどんどん進めていく(弾き歌い曲4曲以上合格すること)

図2 音楽Ⅲ、Ⅳの受講にあたって¹⁾

音楽Ⅲ、音楽Ⅳの受講にあたって

音楽Ⅲ、Ⅳでは、音楽Ⅰ、Ⅱで学んだことを基に、より実践的な内容を学んでいきます。

- 1、4人の教員のいずれかに配属され、基本的に半期(前期なら前期期間中、後期なら後期期間中)同じ教員からレッスンを受講します。
- 2、ピアノ曲や弾き歌い曲など、基準より多く合格した場合は試験の点に加点します。

音楽Ⅲの共通事項

- ・中間試験までにピアノ曲1曲、弾き歌い曲4曲を合格しないと中間試験は受験できません。終わった人はどんどん先に進みましょう。
- ・最終試験までにピアノ曲1曲、弾き歌い曲4曲を合格しないと、最終試験を受験できません。終わった人はどんどん先に進みましょう。
- ・実習曲や就職試験の曲は課題曲と振り替えることが出来ます。(あまりに難しいものは不可、担当教員と相談して決定して下さい)

音楽Ⅳの共通事項

- ・中間試験までにピアノ曲1曲、弾き歌い曲4曲を合格しないと中間試験は受験できません。終わった人はどんどん先に進みましょう。
- ・最終試験までにピアノ曲1曲、弾き歌い曲4曲を合格しないと、最終試験を受験できません。終わった人はどんどん先に進みましょう。
- ・実習曲や就職試験の曲は課題曲と振り替えることが出来ます。(あまりに難しいものは不可、担当教員と相談して決定して下さい)

弾き歌い曲 音楽Ⅲ、音楽Ⅳ進め方

ぶんぶんぶん(p.11)

あめふりくまのこ(p.52, p.242)

かたつむり(p.60)

七夕さま(p.64, p.280)

ハッピーバースディトゥユー(p.3, p.296)

しゃぼん玉(p.88)

アイアイ(p.74, p.240)

バスごっこ(p.50, p.292)

ミッキーマウスマーチ(p.76, 別紙配布)

お化けなんてないさ(p.92, p.266)

まつぼっくり(p.113, p.299)

どんぐりころころ(p.114, p.289)

きのこ(p.118)

やきいもグーチャーバー(p.140, p.304)

まっかな秋(p.158, p.300)

ジングルヘル(p.178, p.274)

お正月(p.188)

思い出のアルバム(p.222)

いめのおまわりさん(p.210)

うたえバンバン(p.16, p.246)

ここまでの曲を全て終えた学生は、担当教員と相談し決めましょう。

※実習曲や就職試験の曲も積極的に見てもらって下さい。

各レベルの課題が細かく設定された横断的なカリキュラムを理解して頂けたことと思う。上記の表から、学生は2年間で実際にどの程度曲を学ぶのか見ていきたい。

- ・レベル1の学生

バスティン45曲、アラバスク、弾き歌い21-23曲、

ピアノ曲2-4曲

- ・レベル2の学生

バスティン34曲、弾き歌い21-23曲、ピアノ曲2-4曲

- ・レベル3の学生

バスティン25-27曲、弾き歌い30曲、ピアノ曲4-6曲

- ・レベル4の学生

弾き歌い33-37曲、ピアノ曲4-8曲

曲数に幅があるのは、例えば2年前期でピアノ曲1曲、弾き歌い9曲の場合とピアノ曲2曲、弾き歌い8曲学習する場合で異なるためである（ピアノ曲を短期間で2曲仕上げるのが難しい場合は弾き歌いの曲と振り替えることを可とした）。実際には各レベルこれ以上に曲を学ぶ学生が多い。例えば1年経たないうちにバスティンの教科書を終え、2年生のカリキュラムにどんどん入っていく初心者学生。経験者・上級者の学生も上記の課題以上に曲を合格することが多い。ここに載せているのは、あくまで基本の学習曲数である。

そして課題曲数以上に大切なことは、どのように学ぶかということである。つまり2年後に独立していかなければならないということを念頭に置き、効果的な練習の仕方、指番号の決め方、子どもを意識した音楽活動の展開の仕方、表現力の追求などを根底にしたピアノ、歌唱、歌唱指導、模擬保育の指導はもちろんのこと、（筆者の大きな目標は）音楽の授業を通じて豊かな人間性、保育者としての資質をしっかりと育んでいかなければな

らないということである。次章では、筆者が授業でどのようなことを大切にしているか、そしてなぜそれが学生の豊かな人間性を育むことに寄与するのか、アンケートの項目と共に見ていきたい。

Ⅲ. 音楽の授業で大切にしていることとアンケート結果の考察

まず、筆者が音楽の授業でどのようなことを大切にしているか示していきたい。ピアノ演奏において大切なフォーム、練習の仕方、基本的な事項をまとめた学生にとって実的な資料、ピアノ演奏の極意（図3）と、筆者の授業に対する考えを示す資料（図4、図5）を紹介する。この資料（図4、図5）は非常勤講師の先生方に授業をどのように展開してほしいか明確に示すために筆者が作成し、配布させて頂いたものである。この10項目（図4、図5）は、NTI⁸⁾の各項目と比較し、学生の人間性を育むこととどのような関わりがあるのかを検証するという意味でも大変重要な資料である。

ピアノ演奏の極意

1、フォームの極意

- ・椅子には深く座ろう（ももの付け根が椅子から出るようにしよう）
- ・椅子の高さに気を付けよう（どちらかという和高めにして、体重が鍵盤に伝わるようにしよう）
- ・手は水をすくう時の自然な丸みを意識しよう。手首が低くなりすぎないように気を付けよう。
- ・重心は胃のあたりに感じて（決して猫背になってはいけない）
- ・5の指はしっかり斜めに立てて弾き、手のポジションを安定させよう。
- ・弾く時には指の最もお肉のついたところを使おう（鍵盤をつかむような意識で弾いてみよう）
- ・理想のポジションはミ、#ファ、#ソ、#ラ、ド（ショパンのアドヴァイス）
- ・身体全体（手首や肘、胃の意識、体重）をうまく使うことがとても大切。

2、練習の極意

難易度の低いところから練習しよう。つまり…

- ・片手ずつ（両手より片手の方が難易度は低い、片手ずつを完璧にしよう）
 - ・ゆっくりと（早く弾くより、まずゆっくりと確実に弾けるようにしよう）
 - ・できないところを部分的に抜き出して（全体を通してばかりの練習は全く意味がない）
 - ・10回連続苦手な部分が演奏できるようになれば、人前でも自信を持って弾ける。
 - ・片手ずつの練習の時に右手と歌、左手と歌の練習を必ず入れよう。しっかり元気に歌えるよう声にも気を配ろう。
 - ・最初、音符にフリガナを振るのは良いが、少しずつ減らしていくよう努力しよう。
- 最終的には音符をパッと見て音が分かるようにしよう。

3、応用編

- ・スタッカートの弾き方
手首を柔らかく使って、ボールをドリブルするような気持ちで。鍵盤の底が熱いと思って…
大切なのは最初鍵盤を触った状態から弾くこと。音を素早く掴み取ってくる意識で弾いてみよう。
- ・スラーの弾き方
スラーはなめらかかという意味である。そのフレーズを一旦で歌いきらという意識が必要である。
音がつながっているだけでなく、音の強さのデコボコがないととてもきれいに演奏できる。
メロディラインに従って音の強さが自在に変化できるように演奏しよう。手首で呼吸をイメージしてみよう。
- ・和音の弾き方
三つの音がしっかり揃っているか、鳴っていない音はないか、よく聴こう。鍵盤を握るような意識で弾いてみよう。
自分にとって最適なポジションはどこか研究してみよう。5の形が崩れないように注意しよう。
- ・指番号の決め方
一概に説明するのは難しいが、フレーズの中にどれくらい上の音、下の音があるかで最初の音の指番号を決定しよう。
左手は元々の和音を変化させたものが多いので、和音で同時に取ってみて決めていこう。
- ・歌唱指導
まわりで友人が歌っても堂々と弾けるくらいになろう。また、少し横を向きながら、
歌っている友人の声を聴きながら演奏できるようになろう。声をかけながら、歌を教えられるようになろう。
- ・ペダルの踏み方
必ず和音が変わった時にはペダルがない状態を作ろう。和音を弾いたあとに踏むのがポイント。
指でもしっかりと音をつないで弾こう。

これらがしっかりマスターできれば、あなたのピアノ演奏はどんどん良くなっていくでしょう。

音楽担当 佐藤雄紀

図 4 授業に対する考えを示す資料 1

1) ピアノを同時に 2 台またはそれ以上のピアノを使ったダイナミックな指導法を心がけて下さい。

ピアノ 2 台を同時に使った指導、時には 1 台のピアノに二人の学生を座らせ、一緒に片手ずつの練習、片手と歌の練習、それぞれの右手と左手のアンサンブル、二人とも両手でアンサンブルなど様々なヴァリエーションを与え、変化に富んだ楽しいレッスンをしてあげて下さい。また一緒に弾く際のテンポの設定や、合図も学生に任せてみて下さい。

2) ピアノレッスンにゲーム性を与え、楽しんで取り組ませて下さい。

例えば、「全員がこの部分を 3 回連続弾けるまでやってみよう。苦勞している友人がいたら自分なりのコツを教えてあげて、皆でできるようにしよう。」などの声掛けをしてみてください。これにより楽しみながらも全体のレベルの底上げが期待でき、友人とコミュニケーションを取りながら、指導を体験させることができます。

3) 初心者者の基礎力底上げや練習方法の定着のために、なるべく長い時間教員の近くで一緒にレッスンをして下さい。

このアクティブ・ラーニングを用いたピアノレッスンの発想の原点はここにあります。週に 10~15 分のレッスンで基礎力を身に付け、卒業後に自分で学んでいく力をつけていくのには限界があると思います。なるべく長い時間、教員の目の行き届くところでのレッスン心がけて下さい。小グループで一緒に行うことで友人の取り組みや成長を知り、刺激を受け合う姿を多く見ることができました。短い時間で指示をだし、レッスンを何周もし、常に気にかけてあげて下さい。学生に暇な時間がないよう工夫して下さい。

4) 教えて異なる進度の学生を小グループに温存させています。

教えて異なる進度の学生を温存させています。学生の真の成長のためには、小グループ内に様々な進度の学生が混じっている方が、教え合えるだけでなく、学習の幅が広がると考えているからです。学生を積極的に動かし、自分のクラスをチームとして成長させてあげて下さい。

5) ピアノ経験者・上級者を積極的に活用して下さい。

経験者・上級者には、積極的に授業を引っ張ってもらうことが大切です。教員がしっかりと(小グループの)教える側と教えられる側を大きな目で見守ってさえいれば、何もピアノを教えるのは教員だけでなく良いと考えています。また、経験者・上級者に歌唱指導を行わせることにより、初心者は歌唱指導の方法を学ぶだけでなく、新しい曲の予習、歌唱練習をすることもできます。また、経験者・上級者の初心者へのピアノ指導は、必ず自らの学習に生きてきます。保育者にとって大切な相手の変化に気付く力を養うことができます。もうこの学生は(ある事情について)しっかり教えられるということが確認できていて、ピアノが温んでいる場合などには、「ここまで(別室で)教えてきて。」と頼むのも良いでしょう。学生達が別室から帰ってきたら、成果と一緒に確認してあげて下さい。上級者の学生が必死で学べるよう、課題をしっかりと与えてあげて下さい。

6) 教員は学生にピアノを教えるながらも、小グループ(6-8 人程)の様子にも目を行き届かせ、教える側にも教えられる側にも助言を与えて下さい。

教員には、広い視野、豊かな創造性、高い集中力が求められます。教員自身もしっかりレッスンをを行いながら、学生のレッスンのプロセス、成果をしっかりと見守り、教える側にも教えられる側にも助言を与えて下さい。

図5 授業に対する考えを示す資料2

指番号の決め方など、学生が自分で学んでいける力を養って下さい。

僕が教えてきた多くの養成校で学生は、指番号を教員に頼ってくるが多かったように思います。しかし、卒業後には自分で考え決めていかなければいけません。小グループ指導の際にどのような理由で、その指番号にするのかをしっかりと理解させ、自分で指番号を考えられるようにしてあげることが重要です。そして、その理解をより確かなものにするため、教員の代わりに新しい曲の指番号を指導させてみて下さい。

8) 初心者であっても自らの学んだことを生かし、友人を指導させて下さい。

これは必ずや園での音楽指導に生きてきます。自分より苦勞している様々な人の気持ちがわかり、助け合いの精神を学ぶことができます。どの進度の学生も常に頭、心、身体の活発な働きを必要とするようレッスンを組み立てて下さい。

9) どの進度学生にも歌唱指導・模倣保育をさせて下さい。

バステインの楽曲の多くには歌詞がついており、レベル1の段階から歌唱指導をすることが十分可能であると思います。2年という限られた期間で、総合的な音楽的能力を引き上げるため、歌唱や歌唱指導、模倣保育の早期導入は欠かすことができません。学生に歌唱指導、模倣保育をしてもらった後には、意見を出し合い、先生からも良かったところや改善点を皆に向けて助言をしてあげて下さい。どの進度の学生も次の活動に生かすことができます。是非時間を取って下さい。

10) 学生の変化、要望、教員の展望により伸縮自在で創造的な授業を目指して下さい。

このアクティブ・ラーニングを用いたピアノレッスンは、レベル別の決められたカリキュラムをしっかりと学ぶということを軸にすれば、指導法に唯一の正解などはなく、状況に応じて柔軟に変わり続けていかなければならないと思います。教員は学生の変化を敏感に感じる力と、成長させるための大きな展望を持っていれば、いくらかも伸縮自在に、臨機応変に、創造的な授業を展開して下さい。ただの個人レッスンや、MLとは異なり、人と人が助け合い、学生が90分間必死で学ぶ授業を目指して下さい。

筆者が授業の中で大切にしている10の項目(図4、図5)が、なぜ学生の豊かな人間性を育むことに寄与するのか、保育者特性検査NTI⁸⁾を参考にしたアンケートの項目と共に見ていきたい。各質問項目に、1. そう思う、2. ややそう思う、3. あまりそう思わない、4. そう思わない の4択で回答してもらった。

対象: 音楽Ⅱ受講の1年生(音楽Ⅰから継続して受講しており本学の音楽教育を受けて1年経った学生)39名、音楽Ⅳ受講の2年生(音楽Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと継続して受講しており本学の音楽教育を受けて2年経った学生)28名の学生

①自分の損得に関係なく相手のために行動することができたと思う

1年

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1. そう思う 16% | 2. ややそう思う 74% |
| 3. あまりそう思わない 8% | 4. そう思わない 2% |

2年

- | | |
|------------------|---------------|
| 1. そう思う 11% | 2. ややそう思う 70% |
| 3. あまりそう思わない 19% | 4. そう思わない 0% |

②人の感情や気持ちを自分のことのように感じるすることができたと思う

1年

- | | |
|------------------|---------------|
| 1. そう思う 29% | 2. ややそう思う 55% |
| 3. あまりそう思わない 13% | 4. そう思わない 3% |

2年

- | | |
|------------------|---------------|
| 1. そう思う 19% | 2. ややそう思う 67% |
| 3. あまりそう思わない 14% | 4. そう思わない 0% |

③物事を多面的、論理的に考え、客観的に理解しようと努力することができたと思う

1年

- | | |
|------------------|---------------|
| 1. そう思う 13% | 2. ややそう思う 68% |
| 3. あまりそう思わない 16% | 4. そう思わない 3% |

2年

- | | |
|------------------|---------------|
| 1. そう思う 11% | 2. ややそう思う 78% |
| 3. あまりそう思わない 11% | 4. そう思わない 0% |

④人の様子やちょっとした変化からも、心の状態、気持ちなどを察して、きめ細やかな気遣いをすることができたように思う

1年

- | | |
|------------------|---------------|
| 1. そう思う 18% | 2. ややそう思う 51% |
| 3. あまりそう思わない 28% | 4. そう思わない 3% |

2年

- | | |
|------------------|---------------|
| 1. そう思う 8% | 2. ややそう思う 82% |
| 3. あまりそう思わない 10% | 4. そう思わない 0% |

⑤人と気軽に交わり、対人関係に積極的で広く人々と交流することができ
たと思う

1年

- | | |
|------------------|---------------|
| 1. そう思う 36% | 2. ややそう思う 46% |
| 3. あまりそう思わない 13% | 4. そう思わない 5% |

2年

- | | |
|------------------|---------------|
| 1. そう思う 22% | 2. ややそう思う 63% |
| 3. あまりそう思わない 15% | 4. そう思わない 0% |

⑥問題解決に向けて自主的、積極的に取り組むことができたように思う

1年

- | | |
|------------------|---------------|
| 1. そう思う 38% | 2. ややそう思う 46% |
| 3. あまりそう思わない 13% | 4. そう思わない 3% |

2年

- | | |
|------------------|---------------|
| 1. そう思う 25% | 2. ややそう思う 64% |
| 3. あまりそう思わない 11% | 4. そう思わない 0% |

⑦友人を手伝ったり、援助したりすることに労を惜しまず取り組むことが
できたと思う

1年

- | | |
|------------------|---------------|
| 1. そう思う 39% | 2. ややそう思う 47% |
| 3. あまりそう思わない 12% | 4. そう思わない 2% |

2年

- | | |
|------------------|---------------|
| 1. そう思う 19% | 2. ややそう思う 63% |
| 3. あまりそう思わない 18% | 4. そう思わない 0% |

⑧音楽を通じて人として、また保育者として成長することができたように
思う

1年

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1. そう思う 31% | 2. ややそう思う 62% |
| 3. あまりそう思わない 5% | 4. そう思わない 2% |

2年

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1. そう思う 18% | 2. ややそう思う 82% |
| 3. あまりそう思わない 0% | 4. そう思わない 0% |

⑨音楽には人を成長させる力があると思う

1年

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1. そう思う 46% | 2. ややそう思う 44% |
| 3. あまりそう思わない 8% | 4. そう思わない 2% |

2年

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1. そう思う 46% | 2. ややそう思う 54% |
| 3. あまりそう思わない 0% | 4. そう思わない 0% |

何か感じたことがあれば書いてください。

1年

- ・人の弾いている曲を聴いて、自分に足りないことを感じたり、どんな練習が必要か考えたりするととても良い時間になりました。表現力がまだまだ足りないと思ったので、もっと練習していきたいです。一年間ありがとうございました。
- ・みんなの自由曲を聴くことによって、ピアノの表現を勉強することができました。自分ももっと弾けるようになりたいと思いました。
- ・自分が弾けるようになりたいと思った曲に精一杯取り組めて良かった。2年生になったらもっと自分のできることを増やしていきたいです。
- ・友達同士でわからない所を教え合うというのは、自分の復習にもなるし、

わからない所もわかるのでとても助かりました。

- ・人に聞く力がついた。
- ・自由曲が弾けた時、自分が弾けると思っていなくて、嬉しかった。楽しい。

2年

- ・やはりピアノは大変。だけど、保育士になるためには大切。
- ・人に教えるのが難しかったが、「わかった!」という声が嬉しかった。
- ・ピアノを弾いていてとても楽しく感じた。

①の項目は、NTIの愛他性の項目である。NTIのHP⁸⁾によると「自分の損得に関係なく相手のために行動する傾向、すなわち、見返りを求めないで相手の利益になること、相手が喜ぶこと、相手のためになること、役に立つことに労を惜しまず行動する傾向を示します。」とある。保育者にとっては、子どもの成長のためならば、あらゆる労を惜しまない姿勢と言えるだろう。言い換えれば、無償の愛である。保育、教育に携わる者にとって最も大切な精神であることは言うまでもない。音楽の授業で考えてみると、友人ができるようになるまで、様々な声かけをしながら見守り、一緒に困難を乗り越え、その成長を我が事として喜べる精神である。厳密に特定することはできないが、筆者の資料(図4、図5)の10の項目でいうと、1)、2)、4)、5)、8)、9)の項目が、このアンケート項目に関係していると推測される。1年生で、そう思う16%、ややそう思う74%と9割の学生が、2年生で、そう思う11%、ややそう思う70%と8割の学生が自分の損得に関係なく相手のために行動できたと答えていることは非常に意義深い。

②の項目は、NTIの共感性の項目である。NTIのHP⁸⁾によると「人の感情や気持ちを自分のことのように感じる傾向。このような傾向は、人に同情的で、人の気持ちを大切にし、情緒的に受容的であり、人との情緒的コミュニケーションを形成しやすいといった傾向を表します。」とある。

保育者にとっては、子どもの喜び、悲しみ、痛みなど様々な気持ちに寄り添い、共感できる姿勢と言えるだろう。音楽の授業で考えてみると、自分が苦労した経験を忘れず友人に寄り添い、一緒に困難を乗り越える精神と言える。友人の気持ちを想像し、行動することも該当するだろう。厳密に特定することはできないが、筆者の資料(図4、図5)の10の項目でいうと、1)、2)、4)、5)、8)、9)の項目が、このアンケート項目に関係していると推測される。1年生で、そう思う29%、ややそう思う55%と8割強の学生が、2年生で、そう思う19%、ややそう思う67%と9割弱の学生が人の感情や気持ちを自分のことのように感じることができたと思うと答えていることは非常に意義深い。

③の項目は、NTIの論理的思考性の項目である。NTIのHP⁸⁾によると「物事を多面的、論理的に考え、客観的に理解しようと努力する傾向。自分の主観や感情で判断するのではなく、事実や論理、普遍的な基準に照らし合わせて物事を認識しようとする傾向をいいます。」とある。保育者にとっては、どうしてそういう事態になったのか、今までの事例はどうだったのか、もっと良い解決策はなかったのか、もっと豊かな活動を行うためにはどのような工夫が必要だったかなど、子ども達の成長を見守っていくためには必須の冷静で客観的な姿勢と言えるだろう。音楽の授業では、楽譜から作曲者の意図はどこにあるのか丁寧に読み取っていくこと、どのような手順を踏めば子ども達により楽しく歌を教えることができるのか考えること、身体や音楽の理論に基づいた指番号を自分で考えていくことなどが当てはまるだろう。厳密に特定することはできないが、筆者の資料(図4、図5)の10の項目でいうと、4)、5)、7)、8)、9)の項目が、このアンケート項目に関係していると推測される。1年生で、そう思う13%、ややそう思う68%と8割の学生が、2年生で、そう思う11%、ややそう思う78%と9割弱の学生が物事を多面的、論理的に考え、客観的に理解しようと努力することができたと思うと答えていることは非常に意義深

い。

④の項目は、NTIの気働きの項目である。NTIのHP⁸⁾によると「人の様子やちょっとした変化からも、心の状態、気持ちなどを察して、きめ細やかな気遣いをする傾向をいいます。相手の状態を繊細に感じ取ってそれに対応できる傾向を表します。」とある。保育者にとって、子どものちょっとした表情・心の変化を敏感に察知し気付く力は、保育者必須の能力とも言える。筆者は音楽の授業で「私に指示を出されてから困っている学生を教えるのではなく、自分で気付いて積極的に動ける人間になりなさい。それは、保育者として子どもと向き合う時に必ず生きてくる能力だから。」という話をする。指導する立場の学生は、友人の表情や心の変化を読み取りながら、どう伝えれば友人に響くのか、試行錯誤をし、臨機応変に声をかけ、寄り添っていくことが非常に大切である。厳密に特定することはできないが、筆者の資料(図4、図5)の10の項目でいうと、1)、2)、4)、5)、8)、9)の項目が、このアンケート項目に関係していると推測される。1年生で、そう思う18%、ややそう思う51%と7割の学生が、2年生で、そう思う8%、ややそう思う82%と9割の学生が人の感情や気持ちを自分のことのように感じる事ができたと思うと答えていることは非常に意義深い。

⑤の項目は、NTIの社交性の項目である。NTIのHP⁸⁾によると「人と気軽に交わり、対人関係に積極的で広く人々と交流する傾向が強い。人当たりがよく、気さくで相手を緊張させないといった傾向を表します。心のエネルギーが社会的な方向に向かう傾向を表します。」とある。保育者にとっては、子どもの中に自然に溶け込み、楽しく接することができる力と言える。職場の先生方との円滑なコミュニケーションを取れるかどうかも該当するだろう。音楽の授業では、気軽に友人に聞くことができること、友人が困っていたらすぐに気付いて手を差し伸べることなどが当てはまるだろう。また、皆で歌ったり、歌唱指導や模擬保育をしたりする際に、楽

しい雰囲気で行えているかどうかもとても重要である。厳密に特定することはできないが、筆者の資料（図4、図5）の10の項目でいうと、1)、2)、4)、5)、8)、9)の項目が、このアンケート項目に関係していると推測される。1年生で、そう思う36%、ややそう思う46%と8割強の学生が、2年生で、そう思う22%、ややそう思う63%と8割強の学生が人と気軽に交わり、対人関係に積極的に広く人々と交流することができたと思うと答えていることは非常に意義深い。

⑥の項目は、NTIの行動力の項目である。NTIのHP⁸⁾によると「物事に自主的、積極的に取り組む傾向で、よいと思ったことは、人の様子を気にしたり、躊躇したりしないで実行する傾向を示します。また、問題解決に能動的な傾向を表します。また、問題解決に能動的、実行力があるといった傾向を表します。」とある。保育者にとって、日々問題は起きる。その時に信念を持ち、どのように子ども達と、保護者と、同僚の先生方と問題解決に向けて積極的に動いていけるかが該当するだろう。音楽の授業では、難しい課題に出会った時に自分なりに工夫して臨めるかどうか、自分が得た知識を積極的に友人に提供し、問題解決に向けて動けるかどうかなどが当てはまる。厳密に特定することはできないが、筆者の資料（図4、図5）の10の項目でいうと、1)、2)、4)、5)、7)、8)、9)の項目が、このアンケート項目に関係していると推測される。1年生で、そう思う38%、ややそう思う46%と8割強の学生が、2年生で、そう思う25%、ややそう思う64%と9割の学生が問題解決に向けて自主的、積極的に取り組むことができたように思うと答えていることは非常に意義深い。

⑦の項目は、NTIの養育性の項目である。NTIのHP⁸⁾によると「子どもや若い人たちに対して、よく世話をしたり、援助したりすることに労を惜しまない。また、その人たちの成長を喜ぶ気持ちが強い傾向を表します。」とある。保育者にとって、子ども達の豊かな成長は最大の喜びである。多

くの可能性を秘めた子ども達が、何かできるようになるように、様々な考え方をできるように、豊かな感性が育つようにと日々考え、世話をし、援助をしていくことは、保育者の最も重要な仕事で、この項目と大きく関わっている。音楽の授業では、自分が得た技術を友人に伝えたり、その様子を見て喜びを感じたりすることが該当するだろう。この授業で最も大切にしている助け合いの精神である。厳密に特定することはできないが、筆者の資料（図4、図5）の10の項目でいうと、1)、2)、4)、5)、8)、9)の項目が、このアンケート項目に関係していると推測される。1年生で、そう思う39%、ややそう思う47%と9割弱の学生が、2年生で、そう思う19%、ややそう思う63%と8割強の学生が友人を手伝ったり、援助したりすることに労を惜しまず取り組むことができたと思うと答えていることは非常に意義深い。

⑧、⑨の項目は、筆者が本論文でテーマにしている音楽教育＝人間教育の項目である。音楽は果たして豊かな人間性の育成に寄与するものなのか、まとめのような項目を作った。保育者を目指す学生にとって、2年間はあまりにも短い。筆者は、音楽的な力だけでなく、より豊かな人間性、保育者として必要な資質を徹底的に引き上げていかなければならないということを考え、授業を組み立ててきた。筆者の資料（図4、図5）の10の全ての項目が関係していると推測される。⑧では1年生で、そう思う31%、ややそう思う62%と9割強の学生が、2年生で、そう思う18%、ややそう思う82%と全ての学生が答えており、⑨では1年生で、そう思う46%、ややそう思う44%と9割の学生が、2年生で、そう思う46%、ややそう思う54%と全ての学生が答えている。このアンケートの結果は、音楽の授業を通じて、豊かな人間性を育むことができたということを証明している。非常に意義深いことである。

最後に自由記述欄も見ていきたい。教えることの難しさを体験したり、教える喜びを体験したり、自由曲の演奏に刺激を受けたり、挑戦する喜び

を知ったり、表現力について考えたり、聞く力がついたりと非常に前向きな意見が目立った。自由記述欄からも、この授業のスタイルが、学生の考える力を伸ばし、感じる力を強め、豊かな人間性を育めたことが読み取れる。

IV. まとめ

幼児教育の中で音楽は大きな位置を占めている。朝の会での歌に始まり、おべんとうの歌、季節の歌、おかえりの歌、お誕生日会、クリスマス会、音楽発表会など、音楽は子ども達の豊かな園生活に欠かすことはできない。筆者は、養成校の学生達にどのような授業を展開したら音楽の力だけでなく、豊かな人間性を育むことができるのかということを常に考え、年月をかけて多くの改革を進めてきた。ピアノのカリキュラム・教材を見直し、アクティブ・ラーニング型のレッスンに変革し、今や9割弱を占めるピアノ初心者を含む入学生に対する徹底した入学前教育、地域の高校生に向けた毎月の無料ピアノ講座の開講を通じて、学生の意識や音楽に対する考え方が大きく変化してきた。本論文では、これまで本学が行ってきた音楽・ピアノの改革を総括し、保育者特性検査NTIの項目を基にした学生のアンケート結果と、筆者の授業に対する考えをまとめた資料を検証・考察した。その結果、保育者養成校の音楽教育には豊かな人間性を育む力があることが証明された。

V. 今後の課題、展望

新しいカリキュラムでの学生の成長は目覚ましいものであったが、授業をしていて、さらに歌唱を強化していきたい、実践力を伸ばしてあげたいという気持ちから、カリキュラムにもう一工夫を加えた。1年生は、バスティンの歌詞のない曲も全て音名で歌うこと、アカペラの試験を導入したことを必修にし、2年生は、約8人のグループなので、ペアを作らせ、歌唱指導（10分）+意

見交換（５分）、歌から遊びに繋げる模擬保育（１０分）＋意見交換（５分）を必修にした。前期期間中、各ペア必ず両方１回ずつ指導し、自分の活動も含め計８回体験する。歌唱力、実践力、観察眼、発想力、度胸などの向上が期待される。

本論文により、保育者養成校の音楽教育には音楽的な力を養うだけでなく、豊かな人間性を育む力があることが証明された。これからも未来担う子ども達のため、保育者の養成に全力で取り組んでいきたい。

注

- 1) ジェームス・L・マーセル 美田節子訳

『音楽教育と人間形成』はじめにより引用。

音楽之友社、1967年

- 2) エル・システムとは、1975年にベネズエラで生まれた国家的な音楽教育プログラムである。音楽家にして政治家、経済学者でもあるホセ・アントニオ・アブレウ博士によって創始された。子ども達にオーケストラや合唱を学ぶ場を無償で提供し、貧困や暴力、犯罪から救い出す社会変革を展開してきた。日本でも2012年に始まった。

- 3) ポール・シュマツニー、マリア・ストッドマイヤー（監督）

ドキュメンタリー「エル・システム」(DVD)より引用。

EuroArts、2011年

- 4) 佐藤 雄紀

「保育者養成校における入学前準備授業とバスティン・ピアノメソードを用いたピアノのレベル別学習に関する一考察」

『信州豊南短期大学紀要』（34）、pp.119-160、2017年

「本学のピアノカリキュラムを大きく変更するにあたって多くの導入教材を比較・検討した。その中で筆者の目を引いたのはバスティン・ピアノメソ

ードであった。このメソッドでまず素晴らしいと思ったのは、全ての曲に標題がついており、豊富な挿絵を伴っていて、ピアノを学び始める初期段階から学生の想像力をかきたててくれると思ったところである。また、多くの楽曲に歌詞が付いていて、弾き歌いへのスムーズな移行が期待できることに加え、テキストに載っている歌詞付きの曲も実際に園で歌えそうなものが多く、ピアノの学習に付随して、音楽の基礎知識が身に付けられるという構成も魅力的であった。また、ピアノ経験が異なる学生一人ひとりに合わせて、使用するテキストのスタートを柔軟に変えられそうなところ、多くの曲の合格をもらいながら学習を進められることにより、初心者に自己効力感を持たせてあげることが期待できるところなどを総合的に判断し、バスティン・ピアノメソッドを教材として採用した。」

5) 中井 俊樹 編著

『アクティブラーニング』より p. 5

「教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。」(中央教育審議会 2012、p. 37)

玉川大学出版部、2015年

溝上 慎一

『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』より p. 7

「一方的な知識伝達型講義を聴くという(受動的)学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のこと。能動的な学習には、書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そこで生じる認知プロセスの外化を伴う。」

東信堂、2014年

6) 佐藤 雄紀

前掲論文、pp. 119-160、2017年

2016年度、本学でピアノの経験についてアンケート調査をしたところ、10年 16%、5年 14%、3年 16%、初心者 54%という結果になった。2016年度も約7割はピアノ初心者であったが、2017年度は約9割と急激に初心者の割合が増加した。

7) 佐藤 雄紀

「保育者養成校における公開講座（音楽）を通じた高大連携、地域連携の可能性」

『信州豊南短期大学紀要』（36）、pp. 61-94、2019年

2017年7月から中高生向けの無料ピアノ講座、「保育者を目指したい中学生のためのピアノ学習」「幼児教育系進学を目指す高校生のためのピアノ教室」を毎月開講している。開講時間は、平日の放課後17時40分から20時までで、生徒達も着実に力をつけることができた。

8) NTI 保育者特性検査は、人との社会的な場面に現れる自分の特性を客観的に知るためのマークシートの検査ツールである。項目は、愛他性、共感性、論理的思考性、気働き、社交性、行動力、養育性の7つに分かれており、検査データから客観的に自分を知ることによって、足りているところはうまく活かし、足りないところは努力できるように開発されたものである。（筆者要約）

http://www.saccess55.co.jp/kobetu_nti.html(2019年8月9日現在)

引用図

I. 佐藤 雄紀

前掲論文、pp. 119-160、2017年

引用にあたりイラストは割愛した。

II. 佐藤 雄紀

同論文、pp. 119-160、2017年

引用にあたりイラストは割愛した。

III. 佐藤 雄紀

前掲論文、pp. 61-94、2019年

引用にあたりイラストは割愛した。

参考文献

佐藤 雄紀

「保育者養成校におけるアクティブ・ラーニングを用いたピアノレッスン及び幼児に対する音楽表現指導法に関する一考察」『信州豊南短期大学紀要』(35)、pp. 224-250、2018年

佐藤 雄紀

「保育者養成校における入学前教育（音楽）の可能性」

『信州豊南短期大学紀要』(35)、pp. 88-115、2018年

佐藤 雄紀

「中学校・高等学校（音楽）の教員養成校におけるアクティブ・ラーニングを用いた相互ピアノレッスンに関する一考察」

『アクティブラーニングを導入した授業研究』、2017年

西海 聡子、依田 洋子、今川 典子、高田 いちえ

「保育者養成校における器楽（ピアノ）教育（2） -初心者における弾き歌いの難しさとその改善の試み-」

- 『宝仙学園短期大学紀要』（33）、pp. 37-50、2008年
- 伊藤 仁美、葛西 健治、多賀 洋子、今川 典子、嶋田 陽子
「保育者養成における音楽授業科目に関する一考察（1） - 本学の初年次音楽教育カリキュラムの比較を通して -」
『こども教育宝仙大学紀要』（6）、pp. 1-10、2015年
- 吉村 淳子、芝崎 美和
「保育者養成におけるピアノ指導について ―学生の自己効力感に着目して―」『新見公立大学紀要』（36）、pp. 59-66、2015年
- 坂本 暁美
「協同学習を取り入れたピアノ実技指導の学習効果」『四天王寺大学紀要』（56）、pp. 153-164、2013年
- 杉江 修治
「協同学習による授業改善（教育心理学と実践活動）」
『教育心理学年報』（43）、pp. 156-165、2004年
- 梁島 章子、山崎 和子、鹿谷 奈智子、坂井 康子
「初等教員養成のピアノ指導についての研究」
『京都教育大学紀要．A，人文・社会』（75）、pp. 59-84、
1989年
- 北村 恵子、平澤 節子
「幼児教育者養成における器楽教育について」
『上田女子短期大学紀要』（32）、pp. 97-108、2009年
- トリシア・タンストール
『世界でいちばん貧しくて美しいオーケストラ エル・システマの奇跡』
東洋経済新報社、2013年
- ジェームス・バスティン
『バスティン ピアノベーシックス ピアノ（ピアノのおけいこ）レベル1』
『バスティン ピアノベーシックス ピアノ（ピアノのおけいこ）レベル2』

『バスティン ピアノベーシックス ピアノ(ピアノのおけいこ)レベル3』

東音企画、2009年

文部科学省 幼稚園教育要領 第2章 ねらい及び内容

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/you/nerai.htm

(2019年7月25日現在)

厚生労働省 保育所保育指針

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/hoiku_04/pdf/hoiku_04a.pdf

(2019年7月25日現在)

